



めたばる

発行
自衛隊目達原駐屯地
〒842-0032 佐賀県神埼郡
吉野ヶ里町立野7-1
TEL.0952-52-2161



このQRコードの使い方
①お手持ちのスマホ・携帯電話で上記バーコードを読み取ります。
②読み取り結果画面で「目達原駐屯地」をクリック③目達原駐屯地のホームページを閲覧できます。
④過去のめたばる新聞を全面カラーでご覧になれます。

巻頭の辞

九州補給処長兼ねて目達原駐屯地司令
陸将補 吉野俊二

ようやく暑さも和らぎ澄んだ青空が高く感じられ、秋の気配を感じることができるようになりました。実りの秋、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、皆様はどんな秋をお過ごしでしょうか。私はもっぱら運動と適度な？食事を重視して取り組んでいます。皆様もどうか、この心地よい季節を期に適度な運動を行い、良質な食事をとり、タバコを止め、健康な体を作ってみませんか。

さて目達原駐屯地は創立66周年記念行事を10月に開催する予定でしたが、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、皆様のご健康を損なう恐れがあることから、熟慮を重ねた結果、中止する運びとなりました。この記念行事を楽しみにしていた方もおられると拝察しますところ大変申し訳なく思います。新型コロナウイルスの蔓延が様々な施策により早期に収束することを心から願いますとともに、我々は3密の防止や手洗いの徹底等、基本的な対策を確実に実施して感染防止に努めていきたいと思っています。

10月に入りますと鎮西演習という訓練が開始され各部隊は様々な課題に取り組む南西地域を取り巻く環境は極めて厳しいとの認識の下、我々が日頃より地道にしっかりと訓練を積み重ねることが延いては我が国の抑止に繋がると考え、着実に技を磨いていきたいと思えます。新型コロナウイルス感染症、異常気象による災害等、不測の事態がいつ発生するかわからない時代であります、我々は即応態勢を維持し、物心に



鳥栖分屯地における現場指導
致します。
屯地に対するご理解・ご協力をよろしくお願いします。

西部方面総監初度視察



儀じょう

10月7日（水）第39代西部方面総監、竹本竜司陸将による初度視察を受けました。竹本総監は、吉野処長、柳田後支隊長より状況報告を受けた後に、隊内巡視において駐屯地、西部方面後方支援隊、各航空科部隊、鳥栖燃料支処の隊員及び施設を視察され即応性及び部隊の能力を確認して頂きました。

総監統率方針
「任務完遂、使命を自覚せよ。」
要望事項
「万事作戦」
「感謝信頼」
「地域連携」



状況報告



施設巡視（整備部）



施設巡視（鳥栖燃料支処）

訓練最盛期!!



履修前教育・戦闘訓練（3対戦ヘリ）



救命装具取り扱い訓練・救命浮舟1号（4飛）



沖縄派遣隊練成訓練・通信整備（九処）



沖縄派遣隊練成訓練・野外炊事（九処）



航空隊長検閲練成訓練・航空機の直接監視（西方ヘリ）



第2回練成訓練・特殊武器防護（鳥栖支処）

この秋、駐屯地各部隊は訓練最盛期を迎え、各種教育訓練及び行動の基礎の徹底及び練度向上に邁進しています。

沖縄派遣隊練成訓練

02鎮西へ向け着々と

九州補給処は02鎮西に向けて、沖縄派遣隊練成訓練を実施しました。本訓練では、一連の状況下における補給・整備・輸送・システムの維持運営等の練成訓練を行いました。特に補給業務においては、今まで使用していた最大運搬車両25tフォークリフトに加え今回初めて導入したリーチスタッカー（大型海上コンテナを積上げる荷役機械）を使用することで島嶼部に対する大幅な補給業務の向上が見込まれることとなります。また、補給品を確実に掌握するRFID（タグを一つ一つ付けた荷物を瞬時に読取る器材）を補給品に添付するとともに業者による取り扱い操作を研修し、隊員の認識の統一を図ることが出来ました。

鳥栖燃料支処

#2練成訓練

切磋琢磨

鳥栖燃料支処は7月28日（金）第2回練成訓練を実施しました。本訓練は兵棋を使用した指揮所演習で、野外における燃料交付所の警戒要領・各種燃料の補給要領等のイメージアップを図りました。本訓練で班長に補職された渡邊3曹は「訓練指導計画や資器材等の事前準備及び要点をまとめた簡明な命令等、陸曹として必要な識能を体得することができました。」と述べていました。鳥栖支処は実際の練成訓練についても年間を通じて実施し「隊員の基礎動作」及び「部隊の基本的行動」に習熟するとともに各課目ごとに教官を指名して訓練の企画統制を担任することにより責任感及び指導力の醸成を図っています。

今回初めて導入のリーチスタッカー



エンジン整備を実施する隊員（整備部）



RFIDの業者との現場研修



細部配置の選定



#2練成訓練（燃料班のMM）



車両偽装



防護マスクを着用しての燃料給油訓練（特殊武器防護）

「第2回隊訓練」
「第1回隊訓練検閲」

西部方面後方支援隊は、令和2年9月3日（木）から6日（日）までの間、大野原演習場において、第2回隊練成訓練及び第1回隊訓練検閲を行いました。

隊訓練においては、受閲部隊以外の隷下部隊も参加して、約700名の隊員が訓練に参加し、残暑も厳しく、台風の接近に伴って訓練内容を凝縮した状況のなか、新型コロナウイルス感染予防のため、状況に応じてマスクを着装し、三密を避けつつ訓練に励みました。

また、当訓練の枠組の中で西部方面輸送隊、第106全般支援大隊、第301通信直接支援中隊及び西部方面後方支援隊本部付隊通信小隊それぞれに対する訓練検閲を行いました。後方支援隊長は、受閲部隊に対し「いかなる脅威下においても、間断なく兵站支援を継続できる強靱な部隊・隊員の育成及び完全な偽装と築城の追求」を要望され、最も厳しい状況となる場面を付与し、支援業務を間断なく強靱に継続するための指揮・幕僚活動、部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作について検閲されました。

第106全般支援大隊

新隊員後期教育修了式

第106全般支援大隊は、令和2年7月2日（木）から同年9月3日（木）までの間、新隊員特技課程及び一般曹候補生課程後期教育（装輪車整備）を担任・実施しました。新隊員56名は、約10週間の教育のなかで、今後配属される一般部隊において必要となる装輪車整備手としての知識と技能を修得するとともに、武器科隊員としての資質を涵養しました。また、野外訓練や射撃訓練において、自衛官の基本基礎となる各個動作の練度向上のため、昼夜を問わず厳しい訓練に励みました。

この間、新隊員たちは、切磋琢磨しつつ、一致団結し、助け合いながら教育に取り組み、かけがえのない同期の絆を育みました。

例年の修了式であれば、来賓及びご家族等、多数ご臨席のもと、盛大に執り行っていました。新型コロナウイルス感染予防を考慮し、規模を縮小することとなりました。それでも、苦難を乗り越え、自信を付与された新隊員たちは、基幹要員や大隊の隊員に見送られ、胸を張って意気揚々とそれぞれの部隊に巣立って行きました。



第3対戦車ヘリコプター隊

陸曹候補生課程 履修前教育

第3対戦車ヘリコプター隊は、令和2年9月7日から18日までの間、目達原駐屯地において西部方面航空隊が実施する陸曹候補生課程履修前教育を担当しました。

教官の秋月陸史陸曹長を核心とし、履修予定者9名に対して陸曹としての資質を向上させるとともに、陸曹候補生課程入校準備に万全を期すための各種教育を実施しました。

高良台演習場における野外訓練においては、悪条件をもつとせず、履修前教育隊一丸となって訓練に励み、所期の目標を達成することができました。



突撃発揮位置前の隊員



躍進する隊員



集結地からの前進



航空隊長による基幹要員に対する激励

西部方面ヘリコプター隊

7月豪雨災害派遣

西部方面ヘリコプター隊は、令和2年7月4日以降、記録的な大雨の影響により、九州地方の広域に及ぶ土砂災害、河川の氾濫、浸水等による人的被害、家屋・道路等の物的被害の発生に伴い、災害派遣活動を実施しました。

迅速に初動対処態勢を確立し、航空機による孤立者等の人命救助、被害状況確認のための航空偵察及びヘリコプター映像伝送インフラ復旧のための物資空輸等の各種任務を昼夜問わず、隊本部、航空操縦、航空機整備、通信の各特技分野を結集し、組織力を最大限発揮しつつ「一秒でも早く被災地に到着し、一人でも多くの被災者を救出する。」を合言葉に、ヘリコプター隊一丸となって災害派遣に臨み、安全確実に任務を完遂して、民生の安定に寄与することができました。

今後も、即応態勢を維持しつつ、航空安全を確保しながら、厳しい訓練を積み重ね、多種多様な飛行任務を完遂して参ります。



被災地へ向け離陸



ドーザーの空輸



避難場所への搬送



通信事業者「KDDI」空輸支援

第4飛行隊

救命装備品取り扱い訓練



救命浮舟2号の訓練を実施する隊員

第4飛行隊は、令和2年9月14日(月)格納庫及び駐屯地プールにおいて、救命装備品取り扱い訓練を実施しました。

本訓練では、救命に関する知識を習得及び強固な生存意志を醸成させるとともに、救命胴衣、救命浮舟等の救命装備品の構造・機能を理解させ、正しい使用技術を身につけさせ、海上遭難時の生存能力向上を図ることが出来ました。

今回の教訓・成果を基に、引き続き訓練・任務に邁進して参ります。



救命装備品の展示・説明

第321基地通信中隊

大隊射撃
競技会



選手宣誓



中間姿勢



待機線で集中する隊員達

西部方面通信群第102基地システム通信大隊第321基地通信中隊は、9月10日（木）令和2年度群・大隊射撃競技会に参加しま

した。本競技会では、射撃能力の向上、部隊の団結の強化及び士気の高揚を図るとともに、自衛官としての責任感を醸成しました。

西部方面管制気象隊第1派遣隊

7月豪雨災害派遣

西部方面管制気象隊第1派遣隊は、7月4日から18日までの間、7月豪雨のため災害派遣の拠点として、八代市会地公園及び球磨村運動公園の2か所に野外管制装置及び気象観測装置を展開し、被災地周辺で人員捜索及び物資空輸等を行う航空機への活動支援を行いました。



航空機と交信し情報提供を行う隊員（管制装置シェルター内）



展開中の野外管制装置



気象観測を実施する隊員

西シ通群本部中隊
映像写真小隊空中伝送班

7月豪雨災害派遣



映伝機内の活動状況

空中伝送班は、令和2年7月豪雨に伴う熊

本県球磨村の被害状況、また9月7日に九州南部に被害をもたらせた台風10号に伴う宮崎県、土砂災害及び鹿児島県全域の情報収集のための撮影任務に従事し、これまでの訓練成果を発揮する事ができました。

特技集中訓練
新戦力加入

9月、新配置隊員2名の若い戦力が加わり総員17名となり新態勢が整いました。早期戦力化を図るため特技集中訓練を実施中で、両名とも即動の重要性を認識し、しっかりと能力の向上に努めています。



機材操作事前点検



飛行見積り訓練

新着任部隊長紹介



西部方面システム通信群本部中隊映像写真小隊空中伝送班長
3等陸尉 中溝 貴浩
出身 福岡県
職種 通信科
座右の銘 日々進化

ようこそメタバルへ

■新隊員各部隊へ続々と配置
目達原駐屯地は9月上旬、今年度新たに陸上自衛隊に入隊した約40名の隊員達がそれぞれの部隊勤務を始めました。



第4飛行隊 二村 2士

曹友会



曹友会は、令和2年8月20日（木）に修親会とコラボしてのクリーン作戦を実施しました。駐屯地司令をはじめ、副処長、各部長等、駐屯地最上級曹長及び会員に参加して頂き多くのゴミを拾いました。

クリーン作戦は年2回、修親会との協同事業であります。駐屯地の為に相互に助け合いたいと思います。

また、翌日の21日（金）には駐屯地で佐賀県赤十字献血センターの献血バス来隊にあわせて、曹友会一人でも多くの献血協力者を募るため各通用門において献血呼びかけの為にパンフ入りポ

「クリーン作戦」
「献血協力運動」



布して協力を呼びかけました。献血に協力頂いた駐屯地の皆さんありがとうございました。曹友会は、コロナ禍の中まだまだ家族向けのイベント等出来ませんが、コロナウイルスが終息した際は曹友会の会員の皆様、ご家族の皆様のたくさんの参加をお待ちしております。



定年退官者

九州補給処補給部長
2等陸佐 鈴木 由紀

▽11月11日
西後支 横山 3佐

かささぎのつぶやき

最近『命に関わる暑さ』、『危険な大雨』等の気象用語を耳にすることが多くなりましたが、我が国は新型コロナウイルス流行もあり今までの日常と異なりつつあります。

特に新型コロナウイルスや熱中症による死者が増大し、日常生活は『死と隣り合わせ』になっています。防衛省・自衛隊では各種事態への迅速な対応が求められています。その骨幹となる隊員自身が日頃から健康に留意する必要性が増していると考えます。私は50歳を過ぎ、知人が次々に亡くなっている状況もあり、健康に留意するようになりましたが、2年前に80歳を超えた米国の現役女性ボディビルダーを扱ったサイトを偶然目にしました。

その女性は56歳からボディビルを始めそうですが、見た目はほぼ50歳代と変わっていませんでした。その日以降、私は若手女性隊員を本に、アンチエイジングに励んでいます。『生涯現役』であり続けるために